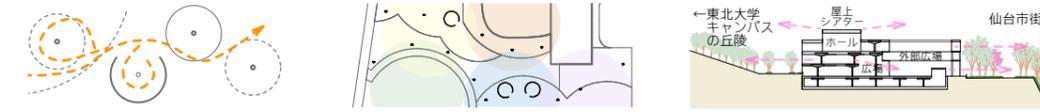


## 緑に包まれ様々な活動が重なり合う平面

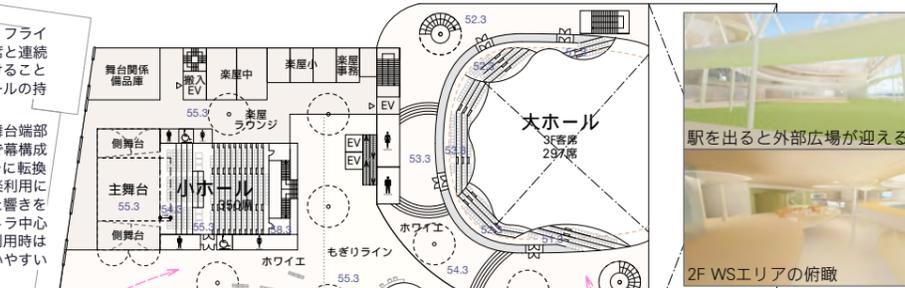
- 木々を縫うように進む動線計画
- 波紋のように重なり合う機能
- 周囲の緑と地形を取り込む多視点空間

樹木柱や円柱の部屋、円弧を描くスラブは公園の中の木々を縫うような経験、木の下で休むような空間体験をもたらす。



### ■ 小ホール

客席は矩形状とし、フライズなしの舞台上部に客席と連続した天井をしっかりと設けることでシューボックス型ホールの持つ優れた響きを実現



### ■ 樹木の樹冠レベルでの展開

青葉公園の樹木の上部樹冠を超えた高さには展開する芸術活動のひろば



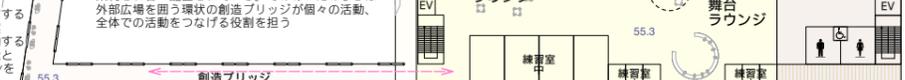
### ■ 屋上シアター

屋上には緑化とともに、屋上シアターを設置し建物全体で活動の場を創出すると共に、東北大学キャンパスや仙台市街地を見渡す地域のランドマークとなる



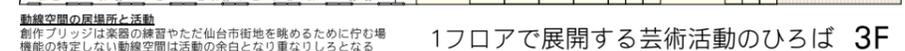
### ■ 移動ミュージック

主にホールのホワイエに滞留する移動のミュージックを提案



### ■ 動線空間の展開と活動

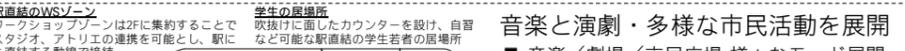
創作ブリッジは楽器の練習やたばこ仙台市街地を眺めるために存留機能の特定し動線空間は活動の余白となり重なり合う



1フロアで展開する芸術活動のひろば 3F

### ■ 配置するWSゾーン

ワークショップゾーンは2Fに集約することでスタジオ、アトリエの連携を可能とし、駅にも直結する動線が接続



### ■ 学生の居場所

歌げけに面したカウンターを設け、自習など可能な駅直結の学生若者の居場所



### ■ 音楽と演劇・多様な市民活動を展開

■ 音楽・劇場/市民広場 様々なモード展開



### ■ 東北一の音響を実現するホールの空間設計

サウンド形式のオーケストラに適した音楽ホールからオペラなど本格的な舞台を持つ劇場まで様々なモードに対応。ランドスケープの延長のように変化にとんだ空間は優れた音響を可能にする様々な反斜壁や大小の拡散形状を作り出し、東北一の音響を実現する。舞台上の客席と天井を可動とすることで、プロセニウム舞台に転換、舞台上の客席は犬迫により奈落に収納。舞台上の天井はフライズ後方の吊り物に干渉しない位置に収納。



### ■ 空中に浮かぶWSゾーン/管理しやすい運営フロア2F

青葉の風テラス(カフェラウンジ)



## 地形や樹木と呼応する複合施設の景観

青葉山の段丘に浮かび上がり 樹木の高さと呼応する広場や災害文化 芸術文化の活動



### ■ 実験的な活用を可能とする小ホール

- 舞台とホワイエがフラットに繋がるホール
- ・シューボックス型を基本形としてアコースティックに最大限配慮したホール形式を採用する
- ・舞台下手を開放し、ホワイエと連続することで、様々な実験的な活用が可能となる機構とする
- ・例えば音楽祭を行う場合、創造ひろばや創造ブリッジとも連携してひとつの町のように多様な活動が同時に展開する。また、リハ室群とも連携してフロア全体が芸術活動のひろばとなる



### ■ フロア全体で音楽祭や国際学会が展開



### ■ 広場と繋がる地形のような大ホール

- 駅からホールまでフラットに流れる動線
- ・駅から交流ロビー/広場を経てフラットに流れ込む先に地形のように大らかなホール内部が現れる
- ・災害文化創造発信エリアと隣接し、ホワイエから常に見渡せるような視覚的連続を確保する

### ■ 常に仙台/広瀬川を感じるストーリー性をもった素材

←埋木細工(ホール内壁) 仙台ガラス(ホワイエ)



一体感が高まり、音に包まれる大ホール

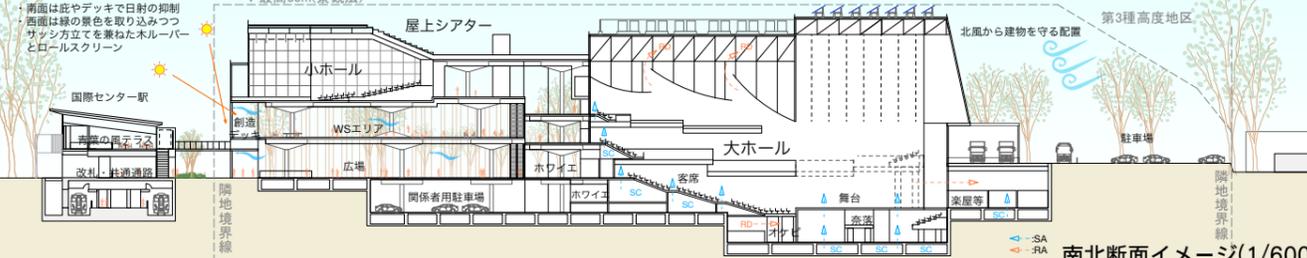


通りや公園と地続きでつながるグラウンドフロア 配置兼1F平面イメージ(1/600)

### ■ 駅/青葉の風テラスと連携し内外が連続するランドスケープのような建築

- 駅からの屋根/テラスとの接続
- ・駅2Fのテラスと複合施設の「創造デッキ」を接続
- ・安全な電気 電力2回線引込、非常用発電機(災害時72時間利用)
- ・安全な電気 電力2回線引込、非常用発電機(災害時72時間利用)
- ・年1200mmの雨水の60%を雨水利用、上水使用量の70%を雨水を水源とすることが可能

- ZEBready実現を目指す環境建築
- ・十分な断熱(屋根150mm、壁100mm、床50mm)単位mm/底やデッキで日射抑制
- ・安全な電気 電力2回線引込、非常用発電機(災害時72時間利用)
- ・年1200mmの雨水の60%を雨水利用、上水使用量の70%を雨水を水源とすることが可能
- ・空調熱源はヒートポンプによるシンプル化、空調系統は細分化



南北断面イメージ(1/600)



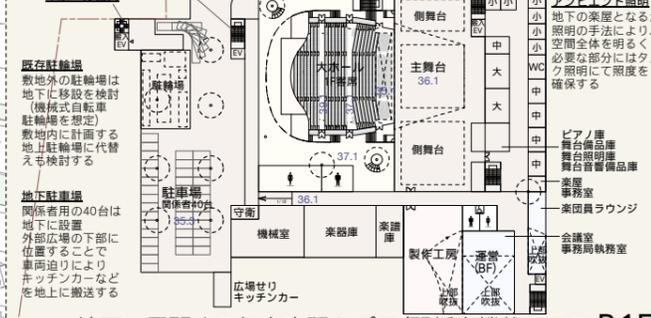
日常に溶け込む ホール空間と震災メモリアル拠点



重なり合う外部広場と交流ロビー

### ■ 舞台廻りに集中する楽屋/工房/楽団運営

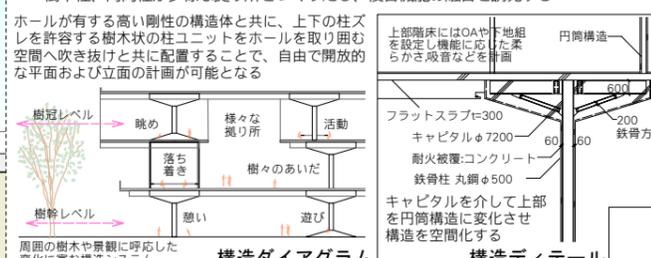
- ・舞台周辺に楽屋など機能を集中しフラットに行き来できる関係とする
- ・製作工房や運営も側舞台に隣接し、吹抜けを通して外光も取り入れる



地下に展開する舞台空間とプロ/関係者機能フロアB1F

### ■ 内部空間をランドスケープ化する構造計画

- 樹木のように広がり空間化する柱
- ・地下はRC造、地上は鉄骨造+コンクリート被覆のキャピタル(柱頭付)柱とフラットスラブ
- ・樹木のようなキャピタル柱はスパン16m程度を可能とし、柱位置のずれも許容する
- ・必要に応じてキャピタル上部は円筒形の柱となり、内部に空間をつくることも可能となる
- ・樹木柱、円筒柱が多様な振り所をつくりだし、複合機能の融合を誘発する



構造ダイアグラム 構造ディテール